

「認定こども園等での自然体験モデル事業」に関するプログラム評価2019-2024

(対象：静岡市内の1～5歳児)

※赤字は2023年度

※緑字は2024年度

【めざす最終アウトカム】

人と自然の関係の中で、新たな価値観を創りだせるようになる。

プロセス評価			
アウトカム指標	アウトプット指標	見られた主体的な姿	活動（大人の関わり方）
自然に触れ、主体的に遊んだり学んだりできる。 【身体能力※】 【自立心※】 【思考力※】 【好奇心】	自然の中で自ら驚きを発見し、遊びに夢中になる	自然の中で開放されて過ごす 原っぱで転んでも泣かずに楽しむ。自分で起き上がる 1本橋を渡るために、横向きになったり工夫する 落ち葉を見つけ、半分色が違う！と普段気づかない事にも気づく 汚れるのが嫌な子が気にせず遊んだり転んだりする 形に注目して葉っぱ探しをし、三角や星、様々な形のものがあることに気づく 植物で絵が描けることがわかり、それまで興味を示さなかった子がいろいろ試していた	<input type="checkbox"/> 自然の中で安全に遊べる環境を用意する <input type="checkbox"/> 大人も一緒に楽しく身体を動かす <input type="checkbox"/> 子どものやりたいことや変化を見守る <input type="checkbox"/> 一人一人の興味に合わせて言葉をかける <input type="checkbox"/> 発見、探検、寝転びなども楽しい遊びになる <input type="checkbox"/> 大人がきっかけをつくることで子どもが「やってみよう」という気持ちになる
	基礎体力が付き、集中力が持続する	手足を思いっきりのばして、めいっばい身体を使う 傾斜やでこぼこがあるところを歩く 急な階段を上ったり下りたりする。斜面を転がったり、かけおいたりする	
自分のアイデアを、他者に伝えることができる。 【言葉による伝え合い※】 【表現力※】 【想像力】	知りたい気持ちが強くなり、その術として五感を使うことがわかる	生き物や草花などを、五感（触れる・かく・味わう・見る・聞く）を使って楽しむ ex. ふわふわの綿毛、クモのお腹、いい匂いの葉っぱ、すっぱい葉っぱ、落ち葉でカサカサならす おさんぽバックにお気に入りを入れてたくさん入れておみやげにする（そのまま忘れたときの变化に気づく） 積極的に発見をする ex. 角度を変えて見る、葉っぱを揉んでみる、きらいな虫に触れてみる 転んだときに、どこで転んだのか探して確かめる「木の切り株でころんだんだよ」 街中の自然にも気づく 花で絵が描けることを知り、やりたい花を見つけて何色になるか試す 園内での遊びで、葉っぱの形、大きさ、色、質感に気づくようになる	<input type="checkbox"/> 具体的な自然物で五感の使い方を伝える <input type="checkbox"/> 自ら気づくようなヒントを投げかける <input type="checkbox"/> 関心をもったタイミングを逃さず声をかける <input type="checkbox"/> 発見を他者に安心して伝えられる雰囲気をつくる <input type="checkbox"/> 一人一人違った興味や関心を大切に
	自らの遊びをつくりだし、身体や言葉で伝える楽しさを知る	お気に入りのハート型の葉っぱやスキの穂を大人に見せる 見立てたものを身体や言葉で表現する ex. 「ひこきみたい」「鳥になろう」「恐竜の歯（シダの枯れた葉っぱ）」 見つけたお気に入り、多様な言葉で表現できる ex. 「コロコロしてる」「すべすべしてる」「キノコの朝礼順だ」「くつつきむしは進化しているよ」 色水を作り、それをジュースやスープに見立てる→関連する歌を歌う→作ったものを友達に説明	<input type="checkbox"/> 自然物の特徴をつかっただけ遊びを紹介することで、イメージを広げる <input type="checkbox"/> 子どもの気持ちを受けとめる <input type="checkbox"/> それぞれ違った発見をみんなで楽しめるような言葉かける
他者の思いや考えを共有し、協力することができる。 【協同性※】	友達に共感したり、認め合ったりする	友達が見つけた植物や生き物、石などに関心をもつ。自分もやってみようとする 友達のことを考える ex. 遅れた友達を待つ、自分のお気に入りあげる 見つけたお気に入りや見立てたものを、お友達に教える。みんなの前で発表する	<input type="checkbox"/> 近くにいる子どもたちで、おもしろい発見や遊びを共有できるようにする <input type="checkbox"/> 子ども同士やりとりにつながる言葉かける
	友達と協力しあう	友達にカマキリの触り方やオオバコ相撲のやり方を教える みんなで、木にからんでいるツルを「どっこいしょ」と引っ張って取る 葉っぱ、木、石でパーバキューごっこ。2～3人から始まり、興味をもった子が仲間に入り、みんなで楽しむ	
自分のやりたいことに向かって、色々な方法を考えることができる。 【創造力】 【多様性】 【柔軟性】	1つのことから発想をぐんぐん広げていく	自然物の特徴を生かして、遊びを広げる ex. 色ぬりえ、くつつき虫、オオバコ相撲、影絵 キノコの実物を見たあと、給食袋もリアルなキノコ柄に 木の枝をツノ、杖、バイオリン→演奏ごっこ 葉の穴に葉を通す→他に何が通るか考え探す オオバコ相撲→剣のように腰のベルトに刺し、戦いのように	<input type="checkbox"/> 子どもの発見から遊びへ展開させる（まずはシンプルな遊びがよい） <input type="checkbox"/> イメージを広げられるような言葉かけをする
	困ったことがあっても、自分のアイデアで克服する	雨の中でも楽しいことを見出す ex. 葉っぱのかさ、木の枝を揺らすと雨が落ちてくる くつつき虫をつまめばいいことに気づき、自分でとる 石を大きいものから置けば、積み上げられることがわかる	
自分と他者の意見を展開させて、新しいアイデアを生みだすことができる。 【創造力】 【独創性】	友達と一緒に、アイデアを広げる喜びを知る	「どうして木に穴があいてるんだろう？」⇒「虫のホテルじゃない？」 「さっきの虫があけたんだよ」 見立てたもので遊ぶ ex. 木の葉のボール、葉っぱのうちわ 見立てたものをみんなで組み合わせるレストランに ex. 葉っぱのお皿、木の棒のウインナー、木の葉のトマト	
	身近な植物や生き物を大切に思うことができる。 【自然との関わり※】 【生命尊重※】	必要な分だけ植物を探る 自分にひきよせてかんがえる 「ムカデをちよん切ったらかわいそうだ」「家族に会えなくなっちゃう」 ジョウロウゴモをスタッフが「スペースベスしているよ、触ってごらん」と勧め、子どもが興味を持ち、触って遊ぶ クモをスタッフが触り、子どもたちが親しみを感じる⇒『悪いもの』ではない、という認識に 今まで虫に興味なかった子も園庭で虫探しをするように	<input type="checkbox"/> 植物や生き物と触れ合えるように、難しい場合は手助けをする（手に渡してあげたり、観察ケースなどに入れてみたりする） <input type="checkbox"/> 草花を採取するときには「ひとつくだけさい」とあいさつをする <input type="checkbox"/> 虫は観察したらその場で逃がすようにする <input type="checkbox"/> ただの木、葉、クモを気持ち悪いから触ってはいけないとストップをかけていたが、少しだけ触って子どもの様子を見ようとする
危険な場面や生き物・植物について、その対処法がわかる。 【知識・技能※】 【判断力※】	自然の中で危険を判断し、行動する	危険を回避するための行動や身体の見え方を覚える ex. 起伏のある場所を歩く、急な階段は手を使う 実際に見て、知識を自分のものにする ex. 赤い葉っぱはさわらない、ハチがきたらお地蔵さん、ヘビが近づかないように手をたたく	<input type="checkbox"/> 子どもが一人で行けることは、手助けせずに見守る <input type="checkbox"/> 危険なことや対処法を伝える（1歳でも理解できる） <input type="checkbox"/> 枝や石などはルールを守って遊ぶように伝える
	不思議に思ったことを調べたり、試したりすることができる。 【学びに向かう力※】 【好奇心】 【探究心】	日常生活の中で疑問をたくさん見つけ、考える	小さな疑問にたくさん気づき、言葉にする ex. 「なんだろう？」「どうしてだろう？」 予想して実験してみる ex. なんでクモが空中に浮いているんだろう⇒下の方を蹴ってみたら落ちるかな⇒落ちない！ 聞いたことや図鑑のものと、実物が結びつく 自然の中以外でも応用する ex. バスの手すりは何でできているかな？⇒叩いてみる 自然の中での経験をとらえて、多種多様な生き物が共存する生態系について思いをめぐらす ex. ハリガネムシは昆虫がいなくて生きていけない⇒昆虫は木がないと生きていけない⇒自然ってすごく大事だ 自分なりの考えの筋道ができる

※：文部科学省「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」より

【参考文献】

- * 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）※
- * 「知っておきたいNPOのこと5【事業評価編】」（認定特定非営利活動法人日本NPOセンター）
- * 「参加型評価—改善と変革のための評価の実践」（源由理子編著・児洋書房）
- * 「森のようちえんの世界～その実態、あゆみ、課題～」(トヨタ財団発信・提言プロジェクトチーム)
- * 「園での経験と幼児の成長に関する調査」（ベネッセ教育総合研究所）
- * 「保育所の子どもの「学び」まるごとガイド」（無藤隆・汐見裕幸編、学陽書房）
- * 「10の姿で保育の質を高める本」（汐見裕幸・中山昌樹著、風鳴舎）
- * 「森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック」（公益社団法人国土緑化推進機構編著、風鳴舎）
- * 「0歳からのエデュケーション—との子も伸びる保育への誘い」（内田伸子、ポピンズ国際乳幼児教育研究所著、株式会社富士山房インターナショナル）
- * 「ニュージランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファミリーキ(完全翻訳・解説)—子どもが輝く保育・教育のひみつを探る」（大橋節子ほか、建帛社）
- * 「保育の場で子どもの学びをアセスメントする—『学びの物語』アプローチの理論と実践」（マーガレット・カー、ひとなる書房）
- * 「学び手はいかにアイデンティティを構築していくか—保幼小におけるアセスメント実践『学びの物語』」（マーガレット・カー・ウェンディ・リー、ひとなる書房）
- * 「子ども理解を深める 保育のアセスメント」（汐見裕幸著、中央法規）
- * 「子どもの活動が広がる・深まる 保育内容『表現』」（吉永早苗編著、中央法規）
- * 「問いのデザイン—創造的対話のファシリテーション」（安斎勇樹、塩瀬隆之著、学芸出版社）